

## 第6学年国語科学習指導案

日 時 平成18年11月2日(木) 授業Ⅱ

場 所 6年3組教室

児 童 男子13名 女子15名 計28名

指導者 小田 順子

- 1 単元名 生き方や考え方を読み取ろう (光村図書 6年下)

教材名 「海の命」

- 2 単元について

### (1) 教材について

本教材は、海という自然を舞台に主人公「太一」の少年期から青年期を描いた物語である。この物語のベースに流れるのは、海に生きる男たちの海に寄せる熱い思いと、自然と共に生きようとする人間の謙虚な姿である。海の男として生まれた太一が父の死を乗り越え、瀬の主との対峙を経て、父をしのぐ漁師へと成長していく姿は、6年生の児童にも感動を持って読まれるであろうと思われる。

この物語は6つの場面で構成されている。この構成をとらえた上で、太一の心情の変化を読み取ったり、他の人物との関係を捉えたりしながら、作品の山場をじっくりと読み取ることができるであろう。また、一人の人間の成長には周囲の人間の存在が大きく関わってくることや、主人公太一にとっての海やクエのように、人間の成長に何らかの影響をもつ事物や事象があることに気付かせていきたい。

### (2) 児童について

4月の「カレーライス」では、同年代の主人公の心の揺れに共感したり、心情の変化をとらえたりしながら学習を進めた。9月の「やまなし」では、情景描写、比喩に着目しながら読み進めることで、表現の素晴らしさやイメージを広げて読むことの楽しさを味わってきた。これらの学習を通して、子どもたちは、叙述をもとに読み取りを深めようとする意識が育ってきている。

授業の中での、「音読・視写」は一連の流れとして、子どもたちに定着している。視写の速度、書き込みについては個人差があるが、どの子も大切な文を視写するという活動を経ることは、読み取りに生かされている。また、みんなで読む、みんなで書く活動が、学習に取り組む真摯な姿勢を作ることにつながってきた。

読書に関しては、本が好きですすんで読書をしている子が多い。同年代の主人公の成長を描いたこの作品から、自分の今後の生き方を考えたり、自然と人間の共生のあり方について考えたりする視野を広げ、幅広い読書につなげていきたい。

### (3) 指導にあたって

高学年の「読むこと」の指導目標は、「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」ことである。また、物語教材の指導内容は、「登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。」である。

そこで指導にあたっては、主人公の心情を中心に読み取りながら、主人公が出会った人物や事象から学び、成長していく過程を丁寧に学習していきたい。また、この作品の大きなテーマである「自然との共生」について「命」という言葉をキーワードに考えさせたい。

### 3 単元の目標

#### (1) 関心・意欲・態度

- ・「海の命」について考えようとするとともに、関連図書などから命や自然について考えを広げようとする。(読ア)

#### (2) 読むこと

- ・登場人物の心情や場面についての描写など優れた叙述を味わいながら、主人公「太一」が成長していく姿を読み取ることができる。(読ウ)

#### (3) 言語事項

- ・情景描写や人物の心情を表す言葉をとらえることができる。(言ウ (エ))

### 4 指導計画 (11時間)

段階	時間	ねらい	学習活動	具体的評価規準
つかかむ	1	・全文を読んでこれからの学習に関心を持つ。 ・新出漢字を確認する。	・全文を通読し(範読または形式段落ごとと順読みなど)、簡単な感想(印象)を持つ。	(関)太一の生き方や成長に興味を持ち、進んで感想を持つようとしている。
	2	・全文を読んで、あらすじをつかむ。	・全文を通読し(形式段落ごとと順読みなど)、ポイントになる語句をおさえ、場面分けするなどして、文章全体を単純化する。	(読)場面ごとに書かれている大体の内容をつかむことができる。
	3	・全文を読んで、学習の見通しを持つ。	・全文を通読し(意味段落ごと)、学習の見通し(学習計画、学習課題など)を持つ。	(読)学習の見通しを持つことができる。
たしかめ	4	・村一番の漁師であった父に対する太一の尊敬の気持ちを読み取る。 (一の場面)	・海に対する太一の強いあこがれをつかむ。 ・父の姿や父の言葉に着目して読み進め、太一が尊敬する父の姿や考え方を読み取る。	(読)太一が村一番の漁師であった父に尊敬の思いを持っていたことを読み取ることができる。
	5	・与吉じいさに弟子入りし、父と同じような与吉じいさの考えにふれた太一の気持ちを読み取る。 (二の場面)	・与吉じいさに無理やり弟子入りした太一の気持ちをつかむ。 ・与吉じいさの姿や言葉に着目し、太一が海で生きるために大切なことを学んだことを読み取る。	(読)太一が与吉じいさから、海で生きるために大切なことを学んだことを読み取ることができる。
	6	・与吉じいさの死に直面したときの太一の気持ちを読み取る。 (三の場面)	・太一の漁師としての成長をつかむ。 ・太一の言葉に着目し、死を自然なものとして受けとめ、学んだことに感謝することができる。学んだことを読み取る。	(読)与吉じいさの死を受けとめ、人間も自然の一部であることや受け継がれた教えに感謝の気持ちを持つことができた太一の成長を読み取る。

し か め る	7	<p>・母の悲しみを背負いながらも背に潜り続ける太一の成長を読み取る。 (四の場面)</p>	<p>・母の言葉に着目し、家族をまた海で失うことにおびえる母の気持ちをつかむ。 ・家族や生活を背負いながらも自分の夢に向かって瀬にもぐり続ける太一の熱い思いを読みとる。</p>	<p>(読) 母の不安、悲しみを理解し、家族を支えようとする太一の成長と、「父の瀬」に対する太一の特別な思いを読み取ることができる。</p>
	8	<p>・巨大なクエにもりを打たなかった太一の気持ちを読み取る。 (五の場面)</p>	<p>・巨大なクエに出会ったときの太一の様子が分かる言葉に着目し、太一の気持ちをつかむ。 ・太一の言葉や心情から、自分の夢よりも海の命を大切にすることを選んだ太一の成長を読み取る。</p>	<p>(読) クエと対峙する中で、自然の大きさや命の大切さを感じ取り、自分の夢よりも海の命を大切にすることができた太一の成長を読み取る。</p>
	9	<p>・父親になった太一の姿から太一の生き方を読み取る。 (六の場面)</p>	<p>・「千びきに～」という叙述に着目し、太一が父や与吉じいさの教えを受け継いでいることを読み取る。</p>	<p>(読) 父親になった太一が父や与吉じいさの教えを受け継ぎ、自然と共生する生き方をしたことを読み取る。</p>
ま と め る	10	<p>・「海の命」という題名について考え、作品の主題をつかむ。</p>	<p>・「海の命」という題名が何を表しているか作品全体から考え、主題をつかむ。</p>	<p>(読) 題名が表しているものを考え、作品の主題をつかむことができる。</p>
ひ ろ げ る	11	<p>・立松和平の他の作品を読み、感想を持つ。</p>	<p>・「海の命」と比べながら読み、考えを広げる。 ☆山のいのち ポプラ社 ☆川のいのち くもん出版 ☆田んぼのいのち くもん出版</p>	<p>(関) 進んで他の作品を読もうとしている。</p>

5 本時の指導

(1) ねらい

- クエと対峙し、自分の夢よりも「海の命」を大切にすることを選んだ太一の成長を読み取る。

(2) 展開

段階	学習内容・教師の働きかけ	期待する児童の反応	留意点・評価
つ か む 5 分	<p>1 前時の想起</p> <p>(1) 前時の学習場面の音読 (順読み)</p> <p>(2) 前時の学習内容の確認</p> <p>2 学習課題の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>なぜ、太一はクエにもりを うたなかったのだろうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>四の場面を順読み</li> <li>学習課題を一斉読</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題を確認することができたか。</li> </ul>
た し か め る	<p>3 課題解決への取り組み</p> <p>(1) 学習場面の音読 (順読み)</p> <p>(2) 学習場面の読み進め</p> <p>○太一の夢とはどんなことでしたか。</p> <p>○実際に出会ったクエはどんな魚でしたか。</p> <p>○夢の魚と出会った当初の太一の気持ちはどんなものでしたか。</p> <p>○太一は、なぜすぐにもりをうたないのでしょうか。</p> <p>○動かない魚を前にして、太一はどんな気持ちになっていましたか。</p> <p>○太一は泣いてしまったのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クエを倒すこと</li> <li>青い目</li> <li>黒い真珠のような瞳</li> <li>岩そのものが魚</li> <li>150キロはゆうに超えている</li> <li>興奮していながら冷静</li> <li>クエが動こうとしないから</li> <li>穏やかな目で自分をみているから。</li> <li>大魚は自分に殺されたがっている。</li> <li>泣きそう</li> <li>ほほえんだ</li> </ul>	<p>この大魚を倒さなければ という夢への思いと、もう 一つの思いの間で揺れ動く 太一</p>

<p>た し か め る 3 5 分</p>	<p>(3) 視写</p> <p>○ここでなぜ微笑んだのか。どんなことを考えた末にもりをうたないことを決めたのか。考えるために視写をしましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>水の中で太一はふっとほほえみ、口から銀のあぶくを出した。もりの刃先を足の方にどけ、クエに向かってもう一度えがおを作った。</p> <p>「おとう、ここにおられたのですか。また、会いに来ますから。」</p> <p>こう思うことによって、太一は瀬の主を殺さずに済んだのだ。大魚はこの海の命だと思えた。</p> </div> <p>○一人学び (作業の進んでいる児童のための手だて)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視写文を読み返す。</li> <li>・大切だと思う言葉を丸で囲む。</li> <li>・太一の気持ち(迷いから決断へ)が分かる所に書き込みをする。</li> </ul> </div> <p>○視写文の確かめ読み (一斉読み)</p> <p>(4) 学び合い</p> <p>○太一がクエにもりを打たなかったのは、なぜでしょう。</p> <p>○太一は夢をあきらめてしまったのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほほえみ</li> <li>・えがおを作った</li> <li>・「おとう～」</li> <li>・こう思うことによって</li> <li>・殺さなくて済んだ</li> <li>・海の命</li> <li>・命をむだにしてはいけないと思った</li> <li>・この魚は殺せない。</li> <li>・大魚を父と思うことにした。</li> <li>・あきらめたのではない。</li> <li>・父や与吉じいさの教えを大切にしました。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>評</p> </div> <p>文節単位で、速く丁寧に視写することができたか。</p> <p>(机間巡視をしながら書き込みの視点を絞っていく。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発言を関連づけながら、父や与吉じいさから学んだこと、クエと向かい合う中で感じたことが、太一の決断の核になっていることに気付かせたい。</li> </ul>
<p>ま と め る 5 分</p>	<p>4 学習のまとめ</p> <p>○まとめの音読</p> <p>○太一が夢よりも大切にしたい「海の命」とはどんな事なのでしょう。</p> <p>5 次時の学習内容確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先人たち</li> <li>・魚や生き物</li> <li>・海そのものの命</li> </ul>	

(3) 具体の評価規準と支援の手だて

具体の評価規準と支援の手立て			
	A	B	支援の手立て
自分の夢よりも海の命を選んだ太一の心の成長を読み取ることができる。	瀬の主と対峙する中で父や与吉じいさから学んだことを思い出し、自分の夢よりも海の命を大切にすることができた太一の成長を読み取ることができる。	葛藤の末、夢よりも大切なものがあると思えた太一の成長を読み取ることができる。	大切な言葉「こう思うことによって」「海の命」に着目させる。

## 海の命

立松 和平

なぜ太一はクエにもりをうたなかつたのだろうか。

夢：瀬の主を倒すこと

・こんな感情

・泣きそうになりながら

水の中で太一はふっとほほえみ、口から銀のあぶくを出した。もりの刃先を足のほうにどけ、クエに向かってもう一度えがおを作った。

「おとう、ここにおられたのですね。また会いにきますから。」

こう思うことによって、太一は瀬の主を殺さずに済んだのだ。大魚はこの海の命だと思えた。

太一が大切にしたこと